

公益社団法人日本語教育学会

文部科学省委託事業

「外国人児童生徒等の教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業」
2018年度シンポジウム「モデルプログラムを活用した授業・研修事例」報告

2019年2月23日(土) 於:TKP品川カンファレンスセンター

下関地域における日本語指導の 理解と支援のための出前研修

平田 歩(梅光学院大学・教授)

當房詠子(梅光学院大学・非常勤講師)

① 山口県下関市の日本語支援の現状

◆外国人児童生徒等の在籍は少ないが、1校に1～3名在籍する学校が複数校存在する。（10%程度 ※公立の小学校49校、中学校22校）

◆日本語指導員は2016（H28）年度に1名配置。

⇒翌年から再びゼロ

◆市内の学校のほとんどの教職員が外国人児童生徒等と接した経験がなく、日本語指導はもちろん、コミュニケーションの取り方から悩んでいる現場もある。

② 2016（H28）年度「日本語指導ワークショップ」の取組

実施機関：梅光学院大学（※日本語教員養成課程あり）

◆募集には市教育委員会の協力が得られた。

◆翌2017（H29）年度も同様に実施。



平成28年度 夏休み日本語指導ワークショップ

近年、下関市内の小中学校でも、外国からの児童生徒や帰国子女の受け入れが増えてきています。受け入れに際して不安に思われること、子ども同士、保護者同士の関わりで気になること、学習に必要な日本語の指導法についての悩みなどを、一緒に話してみませんか。きっと解決の糸口が見えてくることでしょう。ボランティアで関わりたいと思っている方も大歓迎です。

1 日程

	8月8日 (月)	8月9日 (火)	8月10日 (水)	8月22日 (月)	8月23日 (火)
9:00 ~12:00	日本語の勉強・夏休みの宿題(児童生徒対象) ※自由見学(希望者)				
12:00 ~13:00	昼食				
13:00 ~15:00	日本語指導ワークショップ (講師:本学准教授・平田歩、非常勤講師・當房詠子)				
	①受け入れと 初期指導	②やさしい 日本語とは	③学習に必要 な日本語指導	④国語教育と 日本語教育	⑤効果的な指 導法を考える

※各回完結型の内容です。全回の受講をおすすめしますが、1回のみ受講でもかまいません。

2 場 所 梅光学院大学 図書館ホール(図書館1階)

3 対 象 小中学校教員、地域ボランティア、保護者等

4 定 員 各回20名(要申込み)

5 参加費 無料
(※午前中の見学から希望される方は、昼食をご用意ください。)

6 申込方法 FAXまたは電話でお申し込みください。

7 申込締切 平成28年 7月 29日(金)

8 申込み・問い合わせ先 アルス梅光(梅光学院大学) 担当:岡崎
電話 (083) 227-1007
FAX (083) 227-1017



外国人児童生徒等を対象とした「夏休み日本語教室」を並行し、日本語教育を専門とする大学教員や学生ボランティアが子どもたちの日本語指導や夏休みの宿題を手伝うという**実際の指導の様子を見学できる**場も設けたが、1回120分の講座を5日間受講するという**ことは学校教員には現実的に難しかった。**

ボランティア希望者の受講が多く、受け入れ校が抱える課題や受け入れ初期に必要なこと、学校行事や習慣への理解、要望を伝えるための日本語の指導、生活言語と学習言語との違いなど、教員経験や日本語指導経験がない人には難易度が高かった。****

③ 2018(H30)年度「日本語指導“出前”研修」の実施

平成30年度 日本語指導“出前”研修

近年、下関市内の小中学校でも、外国からの児童生徒や帰国子女の受け入れが増えてきています。受け入れに際して不安に思われること、学習に必要な日本語の指導についてなど考えてみませんか。研修を希望される学校へ講師が伺い、“出前”研修を行います。ボランティアで関わりたいと思われる保護者や地域の方も大歓迎です。ぜひ、ご応募ください。

1 日 時 平成30年8月2日(木)～9月28日(金)の間で、ご希望の日時をお知らせください。1回で2時間の予定です。

※8月7日(火)、8日(水)、9日(木)、23日(木)、24日(金)は、小中学生対象の「夏休み日本語教室」を梅光学院大学にて行いますので、対応が難しい場合があります。

2 内 容 「受け入れと初期指導」「やさしい日本語」「学習に必要な日本語指導」「外国人保護者とのコミュニケーション」等、学校のご事情に合ったオーダーメイドの内容をご用意します。

3 講 師 ひらた あゆみ 平田 歩 (梅光学院大学 教授)、とうぼう えいこ 當房 詠子 (同 非常勤講師)

4 対 象 小中学校教員、保護者、地域ボランティア 等

5 定 員 20名程度 (※3名以上でお申し込みください。)

6 費 用 講師の謝礼や交通費は無料です。

7 申込方法 FAXまたは電話でお申し込みください。

8 申込締切 平成30年 7月 27日(金)

9 申込み・問い合わせ先 梅光学院大学 担当：みどりがわ たけうち 緑川・竹内
電話 (083) 227-1010 / FAX (083) 227-1120



◆応募数：6会場（7団体）・計58名

中高一貫校（A）…3名

中学校（B）…6名

小学校（C, D）…6名、10名

教育・保育施設（E, F）…27名

(※上記はいずれも現在、外国人児童生徒等が在籍する)

任意団体（G）…6名

◆要望のあったテーマ

- ・当該児童の指導・支援方法、関わり方
- ・当該児童生徒への具体的な指導法
- ・外国人保護者、子ども本人とのコミュニケーションの取り方
- ・保護者支援について

「モデルプログラム」を組み合わせることで個別のニーズに応えた

④ 4つのテーマと「モデルプログラム」

研修内容は次の4つのテーマを柱に、各団体の状況や要望に応じて必要なモデルプログラムを取り入れた。

テーマ	参考にした「モデルプログラム」		研修会場						
	内容	扱った項目	中高一貫	中学校	小学校	小学校	教保施設	任意団体	
			A	B	C	D	E・F	G	
(1) 市内の外国ルーツの子どもたちの状況を知る	①外国人児童生徒教育の考え方	「外国人児童生徒等」とは			○	○	○	○	
		「日本語指導が必要」とは			○	○	○	○	
	③外国人児童生徒等受け入れの現状と施策	県内、市内の在留外国人統計			○	○	○	○	
		県内、市内の受け入れと対応状況について			○	○	○	○	
		義務教育に関する法律			○	○	○		
(2) 必要な日本語支援について考える	⑩認知発達と言語習得	第二言語習得のプロセス		○	○	○			
		⑰日本語指導の理論と方法	日本語指導の方法	○	○	○	○	○	
			実際の日本語指導例	○	○	○	○	○	
			教材の利用と作成	○	○	○	○	○	
			学習支援サイトの紹介	○	○	○	○		
	⑲言語能力の把握	生活言語と学習言語の違いと習得	○	○	○	○		○	
日本語レベルの判断方法・「DLA」の実施方法		○	○	○	○	○			
教科学習に必要な日本語について考える		○	○	○	○				
(3) 子ども、保護者の対面する困難について考える	⑧保護者との連携	保護者の実際の声から			○	○	○	○	
		先生とのコミュニケーション			○	○	○	○	
		園、学校からのお便り			○	○	○	○	
		活用しやすいリソースの紹介			○	○	○	○	
	⑪母語・母文化・アイデンティティ	母語の保持	○	○	○	○	○	○	
		家庭での言語環境	○	○	○	○	○	○	
		多言語絵本の紹介					○		
⑫外国人児童生徒等の心理と適応	文化や宗教への配慮			○	○	○	○		
	教職員の心構え			○	○	○			
(4) 「やさしい日本語」について知り、体験する	*モデルプログラム無し	「やさしい日本語」とは	○	○	○	○	○	○	
		「やさしい日本語」練習			○	○	○	○	
		園、学校での専門用語をどう言い換えるか			○	○	○	○	

平成30年度 日本語指導“出前”研修 カリキュラム（一例）

日時		平成30年8月30日（木） 10:00～12:00				
学校・団体名（代表者）		下関市立 D 小学校				
受講者情報		10人（教職員）				
研修テーマ		外国人保護者とのコミュニケーション				
講師		平田歩 ・ 當房詠子				
時間	方法形態	活動展開	モデルプログラム	具体的事項	資料	
(分) 10	10:00 講義 ディスカッション	導入：課題設定		<ul style="list-style-type: none"> ・講師紹介 ・研修受講の理由 ・今抱えている問題 		
20	10:10 講義	展開1：市内の外国ルーツの子どもたちとその対応について知る	③ ①	<ul style="list-style-type: none"> ・県内、市内の外国人 ・「外国ルーツの子ども」とは ・市での対応状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・在留外国人統計 	
30	10:20 講義	展開2：必要な日本語指導について考える	⑱ ⑰ ⑩	<ul style="list-style-type: none"> ・生活言語と学習言語の違い ・日本語レベルの判断方法 ・学習支援サイトの紹介 ・実際の日本語指導 ・第二言語習得のプロセス 	<ul style="list-style-type: none"> ・文科省DLA ・『日本語学級』 ・「こどもの日本語ライブラリ」 	
40						
50	10:40 体験 ディスカッション	展開3：子ども、保護者の対面する困難について考える	⑧	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の実際の声から ・学校からのお便り体験（英語版） 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内支援団体資料 ・英語版資料 	
60	10:50 講義		⑧	<ul style="list-style-type: none"> ・学校からのお便り ・文科省かすたねっと紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ・文科省かすたねっと 	
70	11:00 体験 ディスカッション	展開4：「やさしい日本語」について知り、体験する		<ul style="list-style-type: none"> ・「やさしい日本語」とは ・「やさしい日本語」練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・『日本人の知らない日本語3』 ・「やさしい日本語の手引き」愛知県 	
80						
90	11:20 講義	展開5：外国人保護者とのコミュニケーションについて考える	⑫ ⑪	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での専門用語とは ・宗教、学校行事の母国との違い ・学校職員の心構え ・母語の保持 ・家庭での言語 		
100						
110	11:40	まとめ：質疑応答		<ul style="list-style-type: none"> ・2学期からどのような支援が可能か考える 		
120	11:50					

⑤ 受講者の様子・受講後の声

受講者は現職者や教員経験者であったが外国人対応は初めてであったため<基礎>項目を主体としたが、初めて聞く内容に驚きと戸惑いの様子であった。また、下関市では支援員がつかず、児童生徒の対応や指導はほぼ担任に一任されるため、個別の日本語指導や教科指導にまで考えが及ばないという団体では、保護者対応についての質問が多かった。

- 大変学びの多い機会だった。
- 2学期から活用できそうな内容で、とても勉強になった。少しでも保護者や子どもたちの負担を減らしていけるように実際に取り組んで行きたい。
- 人権教育、特別支援教育など様々な視点があり、もっとたくさんの教員にも研修の機会があればと思った。
- インターネット上には外国人のための役に立つ情報があることを知り、参考になった。
- わかりやすい言葉で接していかなければならないことを学ぶことができた。
- 笑顔で、やさしい日本語で単刀直入に大事な内容だけを保護者に（または子どもに）伝え、不安や困難を、理解し少しでも減らすよう努めたい。
- 保護者の困っているポイントなど実際の声を知ることができ、よかった。

⑥ 成果と課題

◎ 終了後のアンケートより…

「大変ためになった」「内容がよく理解できた」「希望に添った内容だった」と好評であった。市教育委員会の研修が行われず情報が何もない状況の中、「学習支援サイトや様々なリソースを利用したい」「コミュニケーションが取りやすくなるよう少しでも意識したい」などの感想があり、**2学期以降に活かされる期待**が持てた。

● 課題…

外国人児童生徒等の受け入れのある学校ごとに個別に対応できる「出前」の形式はよかったが、受け入れのない学校では関心も持たれないままとなる。日本語指導と教科の指導、多文化理解についてはさらに具体的な内容を、多くの教員が学べる機会を持てるようにしたい。



★保護者の日本語力が高くないため、行き違いの生じることが多いと考え、モデルプログラムにはない「やさしい日本語」についての内容を、すべての団体での研修に取り入れた。話し方や書き方に気をつけることで保護者とのコミュニケーションが円滑になるだけでなく、子どもの指導の際にも教材のリライトなどを意識することができるようになるため、研修には必須の項目と考える。